

# 第13回 土佐の皿鉢ゼミ開催

（対面とZoom同期型オンラインによる開催）

教職実践高度化専攻（教職大学院）院生の実践研究発表「第13回土佐の皿鉢ゼミ」が、2024年8月20日（火）に、対面とWeb会議システムZoomによる同期型オンラインのハイブリッド方式で開催され、131名の方が参加されました。

まず中野俊幸専攻長より挨拶があり、高知県教育次長 今城純子氏から「高知県の子どもの未来のために」と題したご講話をいただきました。日本の若者意識調査結果や高知県における人口流出に伴う生徒数減少のデータが提示され、魅力ある企業や県内就職の促進と県の小中高生の起業マインドの促進を図る企画が紹介されました。また、キャリア教育の推進、生成AIの効果的な活用方法、多様性・包摂性への理解の大切さについても説かれました。特に「小学生の算数のつまずき」について、参加者と考える機会が設けられ、その要因について協議がなされ、日常生活を絡めた理解こそが大切であるということが強調されました。さらに第3期教育大綱・第4期教育振興基本計画から子どもや教員のデジタル・ICT活用イメージについて触れ、本専攻に対して「確かな理論」と「豊富な実践」による指導力を高めていく期待が寄せられました。



各発表会場では、本県の学校教育に関する多様な課題を複眼的視点から捉え、理論に基づいて深く掘り下げる探求がなされました。ここでは、皿鉢ゼミで発表した院生から、それぞれの研究課題におけるこれまでの成果と今後の課題を語ってもらいました。

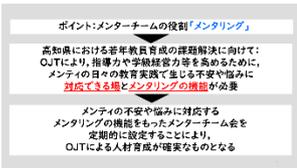
## 【学校マネジメントコース】

### M2 赤崎浩平さん 不登校の未然防止に向けた協働体制の充実ピア・サポートに焦点をあてて

生徒指導上の諸課題の一つとして挙げられる不登校について、ピア・サポートに焦点をあてて、新規不登校を生まない協働体制の構築に向けて研究しています。今年度は、希望者によるピア・サポーター養成講座を実施し、生徒の友達支援の意識、主観的健康感、及び性的多様性に関する意識の変容につながるかを検討しています。



### M2 大勝由美さん 協働意識を高めるチーム学校づくりの改善方策-学び合い高め合うメンター制の構築-



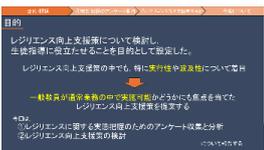
管理職等の協力を得ながら、若年教員育成にとって重要な役割を持つメンターチーム会で、彼らの不安や悩み（ニーズ）に応えるメンタリング機能を高めた「お悩み解決会」を行いました。今後、取り入れた仕組みの成果と課題を検証し、持続可能な取組となるよう検討・協議を進めていきます。

### M2 川村浩二さん 学校組織マネジメント力を発揮する協働体制づくり-組織力を高めるためのミドルリーダーの育成について-

組織力向上のため、ミドルリーダーの校内育成の方策について研究を進めています。マネジメントシートを活用したリーダーによる定期会・ランチ会・教頭との個人ミーティング、さらに今年度は学年（定期・ランチ）会・バディ制の互見授業を行い、これらが効果的なシステムになり得るかの検証を行っています。



### M1 秋澤和希さん 学校教育における生徒指導上の諸課題への教師の手立て-レジリエンス向上に焦点を当てて-



生徒指導上の諸課題の多くに共通すると想定されるレジリエンスに焦点を当てて、レジリエンス向上支援策を検討し、生徒指導に役立たせることを目的として研究を進めています。今回は実態把握のためのアンケート収集と分析、レジリエンス向上支援策の検討について報告しており、今後はレジリエンス向上支援策の作成と効果検証を行います。

### M1 上田稚子さん 教務主任の学校組織への効果的な関わり方について

学校の組織的運営を強化するための教務主任の役割を確認することを目的とし、学校の組織化に関わる教務主任の現状把握のためのインタビュー調査を実施しました。今後は、教務主任の学校運営のリーダーとしての役割を明確化し、役割を發揮するための仕掛けをどのように作っていくのかを検討していきます。



項目	現状把握	課題抽出
役割	教務主任は、学校の運営において重要な役割を担っており、教員からの相談を受けたり、生徒指導に協力したりしている。	教務主任の役割が明確化されていない。教務主任の役割を明確化し、効果的に活用できるようにしたい。
意識	教務主任は、学校の運営において重要な役割を担っており、教員からの相談を受けたり、生徒指導に協力したりしている。	教務主任の役割が明確化されていない。教務主任の役割を明確化し、効果的に活用できるようにしたい。
スキル	教務主任は、学校の運営において重要な役割を担っており、教員からの相談を受けたり、生徒指導に協力したりしている。	教務主任の役割が明確化されていない。教務主任の役割を明確化し、効果的に活用できるようにしたい。
課題	教務主任の役割が明確化されていない。教務主任の役割を明確化し、効果的に活用できるようにしたい。	教務主任の役割が明確化されていない。教務主任の役割を明確化し、効果的に活用できるようにしたい。

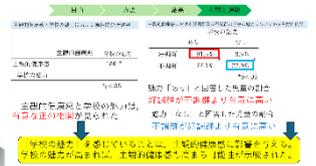
**M1 氏原千恵さん 業務の効率化・削減により教育の質を高める学校経営-実習校の実情に即した業務の効率化・削減の手法を探る-**



実習校の教職員が携わっている業務についての現状把握のため、年間行事予定表と校務分掌や学年団及び学科別の教職員の動き等をリンクさせた一覧表を作成しました。今後、一覧表と共に教職員に実施するアンケート結果を踏まえ、業務の効率化・削減への問題点を焦点化していく予定です。

**M1 岡野秀哉さん 不登校未然防止のための‘魅力ある学校’について-児童の主観的健康感における意識調査より-**

不登校未然防止のための「魅力ある学校づくり」、その具体的な姿はどのように作られていくべきか、児童生徒が現在の学校に魅力を感じているのか、児童生徒にとっての学校の魅力とは何か、魅力を感じている・感じていない児童生徒にはどんな特徴があるのかを研究し、介入の方法を検討しています。



**M1 田村佐緒里さん 中山間地域における小規模校の学力向上に向かう組織の在り方-研究推進委員会の円滑な運営を目指して-**



まず研究構想図に基づき各教職員が効率よく活動するために全教職員で生徒の学習面と生活面のよさと課題を整理する話し合いの場を設け、町の指定研究で具体的に育てたい生徒像について共有を図りました。今後、指定研究の中核となる研究推進委員会の組織的運営についての研究も進めていく予定です。

**【授業実践コース】**

**M2 田内南央さん 考察・構想・表現する歴史的分野の授業の研究**

従来の歴史学習の課題である変えられない事実を自分の意思に関係なく注入され、受動的な活動のみが存在するという課題を克服するために、当時の時代背景を踏まえ単元を通して、様々な人々の選択・判断に着目し、追体験や価値分析を軸とした意思決定、望ましい価値の構想を行う学習を提案しました。



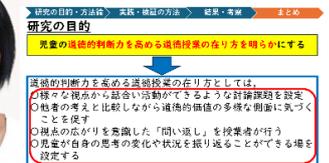
**M2 樋口桃子さん 複式学級における協働的な学びの促進を図る ICT 活用-遠隔協働の単元構成と授業デザイン-**



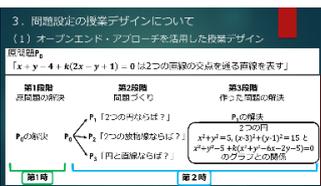
少人数学級での課題を解消し利点を活かすべく、他者意識を育み自己理解を深めるための遠隔協働学習の実現を目的に、外国語活動・社会科・国語科で授業実践を行いました。単元全体を通して断続的に繋ぐ構成とした国語科では、作成した行動指標から児童の非認知能力の向上が明らかとなりました。

**M2 安田直子さん 道徳的判断力を高める話し合い活動の在り方**

道徳的判断力を高める道徳授業の在り方としては様々な視点から話し合い活動ができる討論課題を設定し、他者の考えと比較しながら道徳的価値の多様な側面に気づくことを促すと共に視点の広がりを意識した問い返しを授業者が行い、児童が自身の思考の変化を振り返ることができる場を設定することが有効であると捉えています。



**M1 澤田浩介さん 問題設定による深い学びをめざした数学授業の研究-問題設定の理論と実現するための準備として-**



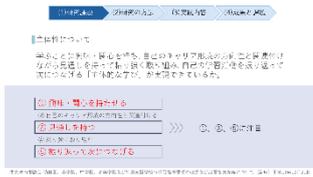
高校数学授業で創造的態度を養うために、問題設定の活動を取り入れることを研究しています。オープンエンドやWhat-If-Not ストラテジーなどの理論に基づき、「2直線の交点を通る直線」を原問題として、生徒にその発展問題を設定させる数学授業をデザインし、実践研究を行っています。

**M1 中村大助さん 道徳的判断力を育む手立てと道徳的環境との関連に関する研究**

道徳的判断力の発達に着目した討論をもとに話し合う道徳の授業の実践の内容や、その効果検証について発表しました。今後は2年目に向けて、さらなる授業実践の工夫や、集団の道徳的環境の構築についての研究を行いつつ、討論をもとに話し合う道徳の授業との関連等についても明らかにしていきたいです。



M1 西村朋花さん 生徒が主体性を発揮する中学校理科の授業デザイン



探究的な理科学習過程の導入部分の「自然事象への気づき」から「課題の設定」への過程を生徒が主体的に行えるよう工夫し、授業実践を行いました。今後は、さらに生徒の興味・関心を高め、主体性が発揮されるよう「課題の設定」場面の工夫を行うとともに、生徒の思考に沿った授業展開になるよう授業研究を進めます。

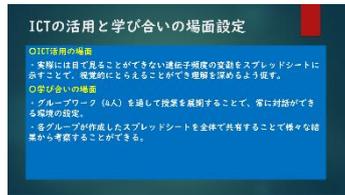
M1 藤井圭介さん ICT を活用した数学の授業デザインの研究-生徒の動的操作を通して-

ICT を活用した教材とそれを用いた中学校数学の授業デザインを研究しています。前期は数学的教具論やDGEs 理論などを基にして「GeoGebra」を使った関数と図形領域の教材を3種類作成し、3年生で授業実践を行いました。後期は同様の教材を用いて2年生で実践をして授業デザインを改善する予定です。



3. 授業デザインと 開発した教材の内容
実践Ⅲ 「2つの正多角形と対応する直線の角」
実践Ⅳ 「2つの正多角形に発展させる。2つの線分を直線に置き、直線の交わる角度が一定になることを発見させ、その角度と正多角形の関係を探索する授業をデザインした。」

M1 松本恭也さん 科学的に探究する力を育てる高等学校理科の授業構想-生徒同士の学び合いにおける ICT 活用の効果検証-

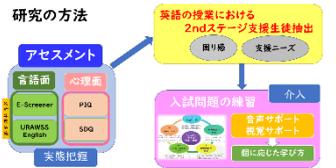


高等学校理科における生徒の興味・関心を引き出すために、ICT を活用した生徒同士の学び合いにおける授業実践を行いました。今後の取り組みとしては、協働的な学びがもたらす効果について研究を進め、授業実践をもとに協働学習が生徒にもたらす影響について効果検証を行っていきたいと思います。

【特別支援教育コース】

M2 井上郁子さん -英語学習に困難のある生徒への効果的な支援方法の研究-

今年度は、4つのアセスメントをもとに英語に困難性のある2ndステージ支援の生徒を抽出し、音声サポートとふりがなサポートのオプションを使用しながら入試問題を解くことの有効性について検証しました。個人差はありますがオプションを必要に応じて活用しながら、効果的に問題が解けたことがわかりました。



結果(凡例)



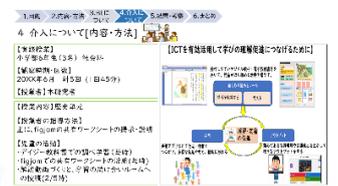
M2 小野哲史さん 高校通級における進路支援-職業準備性の獲得へ向けて-

通級でのSST及び模擬的就労場面でのシミュレーションと通級外での介入(賞賛やフィードバック等)の実施が、就労に関わるソーシャルスキル(目上の人への適切な声かけや用件をメモすること等)の形成と一般に及ぼす効果について検討しました。



M2 杉元健太さん 肢体不自由特有の学びにくさの改善に向けた指導・支援-ICT 活用を中心とした個別最適な学びの実践-

授業でのICT活用において、児童が操作しやすく情報を捉えやすいツールの導入、共有やアウトプットの仕方を工夫した実践を行いました。授業中の行動記録やアンケートの結果より、児童の主体的な活動や児童同士の協働活動の割合の増加や、学習に対する意識の向上が確認できました。



M2 安岡知美さん 知的障害特別支援学校における金融教育

成人した知的障害者を支援している方々からの聞き取り調査の結果を、授業や学校生活の中で生活力を付けるポイントとし実践に取り入れました。金銭の学びを自分ごととするためには、働くことをより多面的に教えていくことが大切であり、作業学習の中で金融教育を実施検証しました。



2 研究の内容・方法
研究の目的・課題
研究の内容・方法
結果・考察
今後の課題

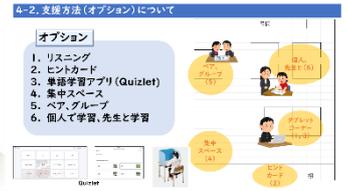
M2 山沖智子さん 教員の気付きから生徒の特別な支援へ繋げる体制の充実

今年度は生徒の支援方法まで話し合う場としての「10分会議」を全学年団に実施することで教員の当事者性が高まり、支援の実行度も上がるなど行動変容に作用しました。また、複数の学習オプションを自己決定させる授業実践が学習方略への気づきになり、生徒の学びへの安心感に繋がりました。



**M1 一谷七菜さん 高等学校における認知特性に応じた授業方略の研究**

高等学校の英語授業において、さまざまな認知特性をもつ多様な生徒が、主体的に学ぶことのできる自律した学習者となるよう、学び方を学ぶ授業方略を検討、実施し、その効果を分析・考察します。アセスメント結果から複数の学びのオプションを提示し、その効果を検証します。



**M1 濱田久司さん 特別支援教育の視点に立った全員参加の学級経営**

通常の学級において特別な支援を必要とする児童と特別な支援を必要としない児童が共に学び、関わり合うことのできる学級経営の構築を目指します。そのために特別支援教育の視点に立った授業改善と、それを支える学級経営に焦点をあてた研究を行います。



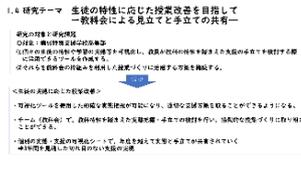
**M1 濱田宏美さん 高等学校における特別支援教育のための支援ツール作成**

通常の高等学校における特別支援教育を保障するため、生徒・教員の「授業における困り感」を調査し、それを改善するための「支援ツール」を作成したいと考えています。生徒の状態像と推定される要因とを紐づけて複数の支援方法を検索できるツールを作り、授業改善に活かせるようにします。



**M1 溝淵優希さん 生徒の特性に応じた授業改善を目指して-教科会による見立てと手立ての共有-**

特別支援学校での授業改善のためのツール開発と、教科会を使ったチームでの取り組みを研究しています。病弱特別支援学校の生徒の実態から、対象校オリジナルUDシートと、学習の困難さ可視化ツールを作成しました。今後、ツールの有効性と、教科会を使った授業改善を進めていきます。



**【各コース別・テーマ別協議内容】**

**【学校マネジメントコース】** 社会や学校の構造変容を背景とした多様なニーズが高まっていますが、学校のみですべてに対応することは困難です。働き方改革も踏まえ、学校はこれらのニーズをどのように捉え、行動すべきかという趣旨で「これからの学校における教員像はどう展望できるか？」をテーマに、「働き方改革」「個別領域」の観点で協議を行いました。「働き方改革」では教育課程編成の領域・複雑多様化する学校へのニーズと教員の役割という点から、「個別領域」では生徒指導・ICT活用・AI時代の学校・小規模校における遠隔授業・専門職としての教員・複雑多様化するニーズや社会への対応などの点から、院生が提案を行いました。フロアの皆様からは、「提案内容は学校現場で実現可能か」「旧来の教員像をいかに変革するか」「新しい教員像の許容には議論が必要である」などの意見が出されました。

**【授業実践コース】** 『自分事になりにくい題材へのアプローチ』を協議テーマとして、道徳科のD領域「感動・畏敬の念」の題材を用い、「自分事として捉えさせるための手立て」について校種別で意見交流を行いました。具体的には、身近な自然と関連させる方法や、心に残った場面を共有して話し合いの軸を明確にし、対立視点を基に意見を形成させる手法が提案されました。総じて、児童生徒の好奇心を刺激するために様々なアプローチを工夫する必要がある一方、授業中に自分事にならなくても後々学んだことの意味に気がつく可能性を残すことも重要だという結論に至りました。

**【特別支援教育コース】** 「通常学級における合理的配慮の提供」をテーマに、高知県教育委員会から出された「学校における合理的配慮の提供プロセス」をもとに校種別のグループで協議・共有を行いました。協議では①本人や保護者からの意思表示がなくても、学校が合理的配慮を必要としていることに気づいた場合、本人・保護者に確認する等自主的な取り組みに努める、②本人・保護者との建設的対話と合意形成、③体制面、財政面における非過重負担、などの部分に注目し、現場での課題や具体的な取り組み方、今後の円滑な合理的配慮提供に向けて教員が留意すべき点などを確認できました。

前日の大雨で開催が心配された皿鉢ゼミでしたが、当日は天候にも恵まれ、それぞれの院生も晴れやかに発表ができました。参加者からご指摘いただいた様々な視点を踏まえて、院生たちは、個々の研究に対し、更なる研鑽を重ねる意気込みが示され、頼もしく感じられました。  
 次回の「第14回土佐の皿鉢ゼミ」は、2025年2月11日（火）開催予定です。

発行者：高知大学大学院教職実践高度化専攻長 中野俊幸  
 編集者：教職実践高度化専攻総務係・ニュースレター委員  
 発行日：2024年9月1日  
 事務局：教職実践高度化専攻附属学校教育研究センター  
 〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1（教職大学院係）  
 TEL 088-844-8457  
 E-mail [ks33@kochi-u.ac.jp](mailto:ks33@kochi-u.ac.jp)